『拝啓　取締役会長殿―台頭する株主アクティビズム、取締役会における闘争』の訂正（２０２５年3月２７日）

本書において、以下の誤りがありました。お詫びのうえ、謹んで訂正いたします。

４４頁・訳注５

（誤）フランスで重農主義の経済学者だったが、フランス革命の後に米国に亡命し、実業家として活躍。息子エルテール・イレネー・デュポン氏はデュポン社の創業者。

（正）

デュポン社の創業者一族で、1915年に同社の社長に就任。資金難に苦しむGMにデュポン社を通じて資金を援助し、1920年にGM社長に就任（本書140-141頁参照）。

- 補足説明：デュポン社の創業者一族のピエール・デュポン氏は、1902年に同社の経営再建に従兄弟らと参画。1915年社長に就任し、事業の多角化や組織・会計の整備などを推進、同社が現代的企業になる礎を構築いた。本書６章（140-141頁）にもあるように、当時ウィリアム・デュラント氏が

経営する、資金難に苦しむGMにデュポン社を通じて資金を援助、さらに1920年に退任したデュラント氏に代わって社長に就任した（1923年にアルフレッド・スローン氏に引き継ぎ）。その名は高祖父のピエール・デュポン氏（フランスで重農主義の経済学者だったがフランス革命の後に米国に亡命し実業家として活躍。その息子エルテール・イレネー・デュポン氏がデュポン社の創業者）に由来する。

以上